

TIME	内容
	オープニングタイトル
	<p>田村： お元気ですか！市民のみなさん。麒麟の田村裕です。</p> <p>藤井： 藤井未莉佳です。 さて、今年最初のスタジオ収録ということで、 今年もよろしくお願いします。</p> <p>田村： 今年もよろしくお願いします。 今年はなんと2020年ですから。オリンピックイヤー！すごいね。</p> <p>藤井： 去年もスポーツの話題が盛り上がってましたが、 今年も盛り上がるんじゃないですか？</p> <p>田村： 既にオリンピック仕事が入り始めてますもん。 NHKのホームページの取材とか、オリンピック・パラリンピックに 向けてパラスポーツを広めるためのイオンさんのイベントとか。 やっぱり着々とオリンピック熱は来てますよ。</p> <p>藤井： すごいですね。忙しくなって。ちゃんと吹田にも帰ってきてくださいね。</p> <p>田村： もちろん帰ってきます。 オリンピックがありますから、外国の方もたくさん来るでしょうし なんかタクシー増やすとか電車も終電を遅くするとかね。</p> <p>藤井： いろんなことが変わってますよね。</p> <p>田村： そんな中で吹田市も市制（施行）80周年ですから。 80周年にオリンピックイヤーがあって、歴史的な1年にならなければ いけないですよ。みんなで盛り上げて、市民のみなさん1人1人に 自覚を持っていただいて支えていただきたいですよ。 あとは後藤市長がやりますから。</p>

藤井：

そうですね。お任せしたいと思います。

田村：

やってくれます、あの人は。

藤井：

では、特集です。特集もスポーツについてです。

去年、盛り上がりを見せたあるスポーツについてです。

TIME	内容
<p>00:01:39 (05' 51")</p>	<p><u>レポーター</u></p> <p>みなさん、こんにちは。福士幹朗です さて、みなさん昨年日本を熱狂させたスポーツといえば？ そう！ラグビーですよ。 本当に、あのワールドカップでの日本選手の活躍はすごかったですね。 感動的でした。さて、今大注目のラグビーを教えてもらえるスクールが ここ吹田にあることを皆さんご存知でしたか？</p> <p><u>ナレーション</u></p> <p>吹田市内を中心に北摂地域の子供達がラグビーを体験し、 練習することができるのが、万博少年球技場を拠点に活動している 吹田ラグビースクールです。</p> <p>1978年に創設された歴史あるスクールで、2017年に開催された 太陽生命カップ第8回全国中学生関西大会で優勝を勝ち取った強豪なんです。</p> <p>福士： 今日も沢山集まってますけど、スクール全体で何人ぐらい来てるんですか？</p> <p>校長： 在籍は幼年から中学生まで242名在籍しております。</p> <p>福士： 下は3歳のお子さんから上は中学生ぐらい、体格的に本当に中学生かな？ と思うぐらい良い体格の子達もいるんですけど。</p> <p>校長： そうですね、大きい子もいますね</p> <p>福士： これだけ多くの選手が集まってラグビーできるってなかなか無いですよ。 卒業生でいうと何人ぐらい輩出しているんですか？</p> <p>校長： そうですね、ざっと1000人以上は。</p> <p>福士： 1000人！じゃあ、その卒業生なかのOBでは結構活躍されてる選手とかも いるんですか？</p>

校長：

元日本代表のキャプテンの広瀬（俊朗）選手であったり、日本代表で活躍しました堀江（翔太）選手であったりというOBの方がいらっっしゃいます。

福士：

その両選手もこの吹田ラグビースクールの卒業生なんですね。

校長：

そうです。

### ナレーション

なんと、日本を代表する両選手も、このスクールでラグビーを練習していたんです。すごいですね！

吹田ラグビースクールは幼年部、小学部、中学部の3つのグループに分かれ週末に練習を行なっています。

そんな未来のラグビー界を背負う子供たちを指導しているのが、ボランティア活動をしている78人の指導員。

日本ラグビー協会のコーチ資格を取得し、年々進化するラグビーに対応した練習法を考え、子供たちの安全を守っているんです。

ボールを持ってグラウンドを駆け回る子どもたち。あ～、かわいい～

福士：

こっちの練習ではどんな子達が練習しているんですか？

校長：

こちらが幼年ですね。こちらが小学校1年生が練習しています。

福士：

なるほど。なんか練習というよりちょっと楽しく走り回って遊んでる？って感じが。

校長：

そうですね。今は小さい子供たちは体を動かして遊ぶ感じで、ラグビーボールを使って遊ぶって形ですね。

TIME	内容
	<p>福士： そういう狙いなんですか？</p> <p>校長： 子供達が来てくれるというのは、楽しいことがないとなかなか来てくれないと思うんで、半分遊びぐらいの形でまずは体を動かすことをやってもらいたいなと思ってやっています。</p> <p><u>ナレーション</u> タックルなど危険なイメージが付き物のラグビーですが、子どもたちが安全に練習できる方法があるんです。</p> <p>福士： 僕のタグを子どもたちが取るゲームをします。 いっぱいつけてなかなかアウトにならないように。</p> <p><u>ナレーション</u> 子どもたちがしているのは「タグラグビー」。 タックルの代わりに腰に付けたタグを取るラグビーで、タックルの危険性を避けながら、ラグビーの楽しさを体感することができます。 でも、ラグビーというより鬼ごっこみたい。</p> <p>福士： 2人はラグビー初めてどのぐらい？</p> <p>子供達： 2年</p> <p>福士： あっ、2人一緒に始めたんや！どうラグビー楽しい？</p> <p>2人： 楽しい</p> <p>福士： どんなところが楽しい？</p>

TIME	内容
	<p>光原くん： やっているとこ。</p> <p>福士： やっているとこ？将来どんな選手になりたいですか？</p> <p>上原くん： 福岡（選手）</p> <p>福士： かっこいいもんな。福岡選手な。</p> <p><u>ナレーション</u> となりのグラウンドでは中学部が実践さながらの練習をしていました。</p> <p>福士： 先ほどの練習は、あれはなんという練習法ですか？</p> <p>コーチ： あれはもうミニゲームですね。</p> <p>福士： タックルもみんな本気で行ってましたね。</p> <p>コーチ： 試合形式で。</p> <p>福士： ちょっとタックルを受けてみたいんですけど・・・</p> <p>コーチ： 大丈夫ですか？</p> <p><u>ナレーション</u> なんとチームNO1のタックルの名手、フロップのレイガくんのタックルを受けさせてもらうことに！強豪の実力を身をもって体験します</p>

TIME	内容
	<p>生徒たち： レイガ！レイガ・・・ (タックル)</p> <p>福祉： うおおおお なにこれ！トラックみたいなのがぶつかってきたんですけど。</p> <p><u>ナレーション</u> 70キロの大人も、ものともしないパワーの持ち主でした。</p> <p>福士： もう本当にすごいタックルでしたけど、どうですか？ 今年の目標とか何かありますか？</p> <p>レイガくん： 今年は去年全国3位やったんで、全国1位取れるように頑張ります。</p> <p>福士： みんな全国1位取れる？</p> <p>生徒たち： ういっす！</p> <p>福祉： 本当にすごいタックルありがとうございました。</p>

TIME	内容
	<p>藤井： 力強かったですよね。</p> <p>田村： 力強いっていか中学生に見えへんし、あんなに人って浮く？</p> <p>藤井： バウンドしてた。</p> <p>田村： 人がボールぐらいに弾んだかのような浮き方。 重力がおかしく見えるくらい軽々浮いてるから。全国3位？</p> <p>藤井： 日本代表を輩出するラグビーの強豪チーム。</p> <p>田村： めちゃくちゃ歴史もあるし、そんなん吹田にあったんですね。 行ってるのかな？誰か俺の周りでも。知らんだけで。</p> <p>藤井： 昔からあったということなので、もしかしたら。</p> <p>田村： もしかしたら友達が誰か行ってたかもしれないですけど。 子どもたちも可愛いしね。</p> <p>藤井： 小さい子で3歳から。</p> <p>田村： タグラグビー、容赦なかったね。</p> <p>藤井： そうですね。</p> <p>田村： スタートの時点で触ってるやつおったもんな。</p>

藤井：

もう取ってましたもんね。

田村：

可愛らしい。

藤井：

楽しんで闘うってところが小さい頃から育まれて、大人になった時に闘志に繋がっていくんでしょうね。

田村：

身体の使い方、覚えるでしょうね。めっちゃ良いと思います。

藤井：

ここまで、吹田ラグビースクールをご紹介しましたが、ここからはラグビーに全力で取り組んでいる選手をご紹介します。題して「全カティーンズ」です。

TIME	内容
	<p><u>ナレーション</u>            駆け抜ける青春！輝け未来、全カティーンズ</p> <p><u>タイトル「全カティーンズ」</u></p> <p>隅田：            昨日は2年生だけで目標とかスローガンを考えて。目標はまず日本一。スローガンは「All Out」って、全て出し切るっていう意味やねんけど、日本一になるためには何事も全力で出しきらんと取れへんと思うからそういう目標とスローガンを作りました。</p> <p><u>ナレーション</u>            吹田ラグビースクール中学部60人の部員を率いるのは隅田誠太郎くん14歳。ポジションはフルバック。そしてチームではキャプテンとして中心的役割を果たしています。</p> <p><u>Q：ラグビーを始めたきっかけは？</u>            隅田くん：            いとこがやっていたというのがあって、お兄ちゃんはそのプレイを見て影響されてそれに僕もついて行ってやった感じです。今までサッカーボールとか野球のボールしか触ってなかったんで、最初は「なんだ、この形」みたいな感じで。最初は鬼ごっこみたいな感じであんまり覚えてないんですけど、楽しい半分でやりました。</p> <p><u>ナレーション</u>            兄弟の影響でラグビーを始めた誠太郎くん。遊びだったラグビーをスポーツとして強く意識したのは？</p> <p><u>Q：ラグビーを強く意識したのは？</u>            隅田くん：            6年生ですね。6年生の時全国大会というのが初めてあって、それで「勝っていかないとダメだ」とかいろいろ思い出すとそこから大事な思って、全国大会が始まればラグビーは大事ななと思いました。</p>

TIME	内容
	<p><u>ナレーション</u>                      プレーヤーとしてラグビーと向き合いながら、キャプテンとしてもチームを牽引する誠太郎くん</p> <p><u>Q：プレーヤーとキャプテンとの両立で難しいところは？</u>                      隅田くん：                      プレイ面とか精神面とかいろんなところで引っ張らないといけなんですけど、精神面の方でみんなをまとめることがまだちょっと大変であまりみんな声とか出せてないんで。大変です。</p> <p><u>ナレーション</u>                      そんな誠太郎君の活躍を、コーチとしても見続けてるお父さん。息子の姿はどう写っているのでしょうか。</p> <p><u>Q：誠太郎くんのラグビーに取り組む姿をどう思いますか？</u>                      隅田コーチ：                      そうですね、家とグラウンドではもう別の見方をしてますね。グラウンドでは、やはり1プレーヤーであり1キャプテンとして頑張ってくれてますので、それを暖かく厳しく普段から見ます。ラグビーという共通言語があるので、その中で家でも話はできますからそこは親子でありながら主任コーチとキャプテンという立場でいい関係で話はできてるかなと思いますね。</p> <p><u>Q：コーチとしての父と意見がぶつかることは？</u>                      隅田くん：                      子供と大人の考え方が違うというのがあるんですけど、たまにそこは「俺らではこうなのに」と思うことがお父さんとの間にあります。</p> <p><u>Q：そういう時はどうしてますか？</u>                      隅田くん：                      何も言わずにお父さんの話を聞いて心の中でそっと置いておきます。</p> <p><u>Q：目標は？</u>                      隅田くん：                      日本一しか目指してないんで、そのためにみんなをまとめていいチームに仕上げたいと日本一に導きたいと思います。</p>

TIME	内容
	<p><u>ナレーション</u> そして、もう一人このチームで活躍する全カティーンズが。</p> <p>中山さん： おはようございます。</p> <p><u>ナレーション</u> 誰よりも早くグラウンドに到着し練習の準備を始めたのは吹田ラグビースクール中学部に所属する中山愛菜（あいな）さん。女子ラグビーの競技人口が少ない中、フォワード兼ウイングで活躍する愛菜さんはチームでも一際目立つ存在です。</p> <p><u>Q：ラグビーを始めたきっかけは？</u> 中山さん： きっかけは小学部のコーチをやっている岡本コーチっていうコーチがいるんですけど、そのコーチに小さい時から誘われていて、お兄ちゃんとかも吹田ですっとやっていて、それですっとやらないか？って言われていて、断っていたんですけど、小4の時にやりたくなってやってみたら楽しかったの。</p> <p><u>Q：ラグビーの楽しいところは？</u> 中山さん： みんなで頑張ってるボールをつなげてトライを取るところとか、あとはタックル入ってみんなで一生懸命頑張るところとかがやっぱり魅力的です。</p> <p><u>Q：怖くないですか？</u> 中山さん： 怖いのは怖いんです。1回怪我したこともあって、タックルに入るのとかも怖いんですけど、入らないとチームのためにならないんで頑張ってます。</p> <p><u>ナレーション</u> スクラムやタックルなど肉対肉にも過酷な練習を次々とこなしていく愛菜さんはチームにとってどんな存在なんでしょう？</p>

TIME	内容
	<p><u>Q：チームでの愛菜さんの存在は？</u></p> <p>隅田くん： お母さんみたいな感じです。みんなをまとめてくれるんで、逆に愛菜には誰も逆らわないというか、マネージャー兼選手権お母さんみたいな感じなんで。女の子としてはすごいと思います。 僕らもその強いチームでやってきてるんで、それについてきてるといのはやっぱりすごいと思います。</p> <p><u>ナレーション</u> そんな愛菜さんも将来には悩みが。</p> <p><u>Q：ラグビーを続けたい？</u></p> <p>中山さん： やっぱり自分はやるんだったらラグビーしかないだろうなと 思っているんですけど、ラグビー続けるかと言われたら、 ちょっとどうかなと思います。 今のメンバーだから楽しいっていうのもあるし、コーチとかも女子の方に 1回行って見たほうがいいよと言われるので今度行くつもりです。</p> <p><u>ナレーション</u> 最後に全カティーンズのお二人に質問しました。 10年後のあなたは？</p> <p><u>Q：10年後のあなたは？</u></p> <p>隅田くん： 昨年行われたW杯で活躍していた選手たちのようにフルバックとして 世界で通用する選手になりたいと思っています。</p> <p><u>Q：10年後のあなたは？</u></p> <p>中山さん： 一緒にラグビーをやっていたみんながW杯とかトップリーグに 出ているのを見て一生懸命応援していると思います。</p>

TIME	内容
	<p>田村： しっかりしてるな、二人とも。 すごいわ、あのキャプテンの子、隅田くん。</p> <p>藤井： 考え方もね。</p> <p>田村： 喋ってる内容がまとまってるというか、明確ですよ。ね。 自分が何をして、何を喋って、どういうふうにしていくかって すごくしっかり見えてるよね。</p> <p>藤井： そうですね。</p> <p>田村： すごいね。女の子もすごいけど。愛菜ちゃん、すごいな。お母さん。</p> <p>藤井： チームをまとめてね。 みんなのお母さんで、マネージャー兼チームメイトっていう、 いろんな役割も。</p> <p>田村： 愛菜ちゃんの方は口を開くたびに「みんな」「仲間」って言葉が すごく出てきてて。</p> <p>藤井： 選手でありながらも、みんなを支えたい応援したいって気持ちが 伝わってきましたね。</p> <p>田村： ラグビーっていう、ちょっと特殊なスポーツでもありますから、 どこかで女性の限界っていうのを既に感じてて、 女子ラグビーに興味持ちながらも「10年後は？」って言われたら 自分がプレーしてるというよりは仲間を応援してるという。 素晴らしいな、あの子はあの子で。</p>

藤井：

私はあんまりスポーツの経験が無いんですが、  
田村さんはスポーツをずっとしてこられて、やっぱりスポーツから  
学ぶことって大きいんですか？

田村：

もちろん大きいですし、チームスポーツですから仲間の大切さとか  
人生でのかけがえのない仲間も出来ますし。  
やっぱりラグビーって危険も多いスポーツやから、  
それだけ向き合い方が本格的なんやと思います。  
「周りに流されてやってます、エヘヘ」みたいな子が  
あんまりおらへんのやろうね。他のスポーツより敷居が高い分。  
グッとくるものがありましたね。すごい頑張ってるよ。

藤井：

子どもたちの本気さと大人の本気も伝わってきましたよね。

田村：

育つね。素晴らしい。

藤井：

これからが楽しみですね。  
まずは秋の全国大会に向けてチームとしてパワーアップを目指している  
ということですので、頑張ってもらいたいと思います。  
今回は今ホットな吹田ラグビースクールについて紹介しました。

VTR\_ワンポイント手話（1分）

TIME	内容
	<p>田村： 続いては「吹田の自由研究」</p> <p>スタジオバック（フライングタイトル）</p> <p>藤井： このコーナーは毎回田村さんがあるテーマに沿って、あらゆる目線から「吹田」の街を自由研究していこう！というコーナーです。</p> <p>田村： そうなんです。今回も私が吹田市にまつわる様々な事柄を私なりに発表させていただきます。 さあ、今回はこんな場所に行ってきました。</p> <p>藤井： 千里山神社ですか？</p> <p>田村： 僕が行ってきたのは、千里山にあるその名も「千里山神社」です。 住宅地の真ん中の高台にどーんとあって、すごい見晴らしも良い所にあるんですよ。</p> <p>藤井： 見守っているような感じで鎮座されているんですね。</p> <p>田村： そうなんです。 なんとですね、千里山の住宅地は大正9年に作られた住宅街でこの住宅地を作るのに合わせて、氏神様が必要だろうということで作られた神社で、すごい歴史もありながら、地域のために作られた神社なので今も愛されてるんですけど、この千里山神社には、なんと僕にもうっすらと関係のある物がありまして、コチラです。 これ少し分かりにくいんですけど。</p> <p>藤井： 何かの碑？</p>

田村：

あのね、そっちじゃないんですよ。たしかにこっちに目がいきますよね。今、喋ってるのはこっちの話してるんですよ。

藤井：

こっちの話？何だろう？

田村：

これね、ろうそく台なんですよ。

藤井：

ああ！神社によくある30円くらい納める。

田村：

そうそう！

あのろうそく台なんですけど、なぜうっすらゆかりがあるかと言いますとここに彫ってある字なんですけど、「吉本興行合同会社 吉本勢」と刻まれているんです。

藤井：

朝ドラになってた。

田村：

そうです！吉本興業の創業者。

昭和の初期に千里山神社にせいさんが寄贈された。

じゃあ、なぜ寄贈されたかということなんですけど、

その理由について良く知る方に聞いてきました。コチラです。

この方は千里山神社奉賛会の藤木祐輔さんです。

お父さんの代から千里山に住まれてまして、千里山の全てを知ってる生き字引です。なんでも知ってます。

この藤木さんに話によりますと、昔から地域に愛された神社で、

この地から出征した兵隊さんの生存率がすごく高いと、

みんな生きて帰ってくると。その噂を聞いた多くの吉本芸人さんが、ゲンを担ぐためにこちらに参拝するようになったんですよ。

その話を聞いたせいさんがろうそく立てを寄贈して、より関係性を持つとうということになってたんですね。

藤井：

そうだったんですか。

TIME	内容
	<p>田村： 僕もしっかりとあやかろうということで、思いっきり念じてきました。</p> <p>藤井： なんかちょっと念が強すぎじゃないですか？</p> <p>田村： 髪の毛全部持ってってもらっていいですよっくらいの気持ちで。</p> <p>藤井： 親指がなんかこうなって。</p> <p>田村： 参り過ぎて参り過ぎて、パワースポットなのであやかろうあやかろうと いうことで。実はですね、神社の裏手に案内板があるんですけど、 「せんりやま」ではなくて「ちさとやま」って書いてあるんですよ。</p> <p>藤井： 本当だ。</p> <p>田村： 「え？」ということで調べてましたら、もともと千里山駅ができる前まで、 このあたりは「ちさとやま」と呼び方が違ったんですよ。 駅が出来た時に正式名称が「せんりやま」になったんですよ。 そしたら自然と「せんりやま」の方が普及していってしまって みんな「せんりやま」と呼ぶようになったんですけど、もともとは 「ちさとやま」やと。現在「ちさと」の名前が残っているのが、 以前、藤井さんが行かれた「千里山佐井寺図書館」。 こちらの愛称が「ちさと」なんですよ。</p> <p>藤井： そういえばそうだったかも。</p> <p>田村： 千里山佐井寺図書館なのに愛称は「ちさと」ということで、当時の 「ちさとやま」の名残が少しだけここに残っていると。</p>

藤井：

しかも、そういうことを知ってる方がちゃんと伝えていらっしゃるから残っていくんですね。

田村：

そうなんですよ。本当に歴史のある良い街やなと改めて。この神社、見晴らしも良いので行ってください。神社としては小さいんですけど、だからこそ存在感もあるし、エネルギーが溢れてて、ここに来ただけで吹田の全てを感じることができるパワースポットなので。

藤井：

そうですね。

田村：

吹田内外からこちらに足を運んでいただいて、お参りをさせていただいて、吉本せいさん寄贈のろうそく立てを見てほしいです。またこれからも吹田のパワースポットなんかも紹介したいと思います。

藤井：

行ってみたいところがまた増えました。

田村：

ありがとうございます。ぜひ行ってみてください。以上、「吹田の自由研究」でした。

## ブリッジ

TIME

内容

	<p>田村： 続いては市内で行われた出来事などをご紹介します「吹田のトピックス」です。</p> <p>藤井： 今回は1月の話題をお届けします。</p>
<p>成人祭 1月13日（月・祝） ホテル阪急エキスポパーク 吹田市の新成人対象者数：4,010人 （男性：2,064人、女性：1,946人）</p>	<p><u>ナレーション</u> 1月13日、ホテル阪急エキスポパークを会場に「成人祭」がおこなわれました。</p> <p>今年度吹田市で新成人となったのは4,010人。会場には「祝成人」看板コーナー、ミニ同窓会コーナー、クラフトコーナー、記念写真コーナー、歯科相談などが設けられ、新成人たちをお祝いしていました。</p> <p><u>(インタビュー)</u> お母さんとかお父さんとか、やっぱり産んでくれた人に関して本当に感謝しておりますし、自分は将来自分のためにじゃなくて、誰かのために頑張っていきたいと思います。</p> <p>自分は英語が大好きで、留学にも行かせてもらったので、それに繋がるお仕事も、これから探していけたらなと思います。</p> <p><u>ナレーション</u> 記念式典は新成人の司会でおこなわれ、後藤圭二市長が先人の格言を引用しながら、新成人に熱くメッセージを贈りました。</p> <p>そして新成人を代表して山木莉那（やまき・りな）さんが「はたちの言葉」で、決意と感謝の気持ちを述べました。</p> <p>式典の最後には、サプライズゲストとして田村さんが登場。</p> <p><u>(田村さんコメント)</u> コンプレックスと思っているけど、実はそれは良い特徴かもしれないので、自分だけが持っている才能かもしれないというふうに考えて、伸ばしていってほしいなと、いう話でございます。</p> <p><u>ナレーション</u> 式典終了後には、後藤市長、田村さんと実行委員会のメンバー等で記念撮影をするなどして、労をねぎらっていました。</p>

TIME	内容
<p>吹田市一斉合同防災訓練 1月19日 市内各所</p>	<p><b>ナレーション・(藤井)</b> 1月19日、市内各地で一斉合同防災訓練が行われました。</p> <p>これは吹田市災害対策本部と各連合自治会との合同で行われた訓練で、午前9時30分にマグニチュード7.5の直下型地震が発生した想定で行われました。</p> <p>市役所には災害対策本部が設置され、市内の被災状況やライフラインの状況、各地区の連絡責任者に避難人数などを確認するなど情報収集を行いました。</p> <p>災害対策本部会議には関係する多くの職員が参加。 想定される最大の被害想定を元に、有事の際の対応を確認していました。</p> <p>各家庭では自宅で身を守る訓練を行ったあと、自治会が決めた避難場所に集合。 南吹田公園では、バケツリレーや消火器を使った消火訓練、毛布と物干し竿を使った担架搬送訓練などを実施。</p> <p>また応急手当講習では、骨折した人への処置の仕方を実習したり、救急救命講習ではAEDの使い方の説明や心肺蘇生法の練習などが行われていました。</p>

TIME	内容
	<p>藤井： すごく本格的ですけど。</p> <p>田村： いつかくるっていわれてますから、南海トラフ（地震）がね。 備えて防げること沢山ありますから、備えられるだけ備えときましょう。</p> <p>藤井： そうですね。そして、田村さんは今年も新成人の皆さんにメッセージを。</p> <p>田村： 自分も吹田で育って吹田の成人式に行ってますから。 僕の時はいしアターでしたけど、当時の自分と重ねながら 少しでも集まってる方々に何か1つ人生が上向ききっかけにとか、 何か壁にぶつかった時に「あの時、そういえば田村が言うてたな。 その時は何も面白って思えへんかったけど、今になって沁みるな」って なればいいなという。 だから、笑いこそなかったけど、しっかり喋ってきましたよ。 最後の集合写真の中にロッセの安田選手が居て、すごく良い子で 本当に応援したいと思ったし、吹田市のみなさんにも吹田のアスリートを 応援してほしいなと思いました。</p> <p>藤井： 吹田ってすごくスポーツに、今日の番組もそうでしたけどね。</p> <p>田村： ラグビーもそうですし、盛んですよ。</p> <p>藤井： ゆかりがあるなと改めて感じました。 ということで、エンディングのお時間になりましたけど、 今回もいろんな情報をお伝えしてきました。 自由研究のコーナーは私、台本を一切渡されてなくて、 フレッシュな気持ちが吸収できるんですよ。</p> <p>田村： ありがとうございます。</p>

藤井：

過去のコーナーも見返していただきたいんですが、過去の放送も市のホームページから振り返ることができますので、皆さま改めて見返してほしいなと思います。

田村：

勉強になることもいっぱいありますからね。

藤井：

パソコンやスマートフォンでも気軽にチェックできますので「吹田市 お元気」のキーワードで検索してみてください。

田村：

それでは、また次回お会いしましょう。さようなら。